2027年６月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年11月13日

上場会社名　株式会社クオルテック　上場取引所　東
コード番号　9165　ＵＲＬ　https://www.qualtec.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）山口　友宏
問合せ先責任者　（役職名）執行役員 財務経理部部長　（氏名）大野　和彦　ＴＥＬ　072（226）7175

配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年６月期第１四半期の業績（2026年７月１日～2026年９月30日）

(1) 経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年６月期第１四半期	1,031	5.2	87	5.3	85	3.6	83	49.1
2026年６月期第１四半期	980	9.0	82	131.0	82	134.0	56	170.2

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年６月期第１四半期	35.55	－
2026年６月期第１四半期	23.84	－

（注）潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年６月期第１四半期	4,775	3,548	74.3
2026年６月期	4,895	3,575	73.0

（参考）自己資本　2027年６月期第１四半期　3,548百万円　2026年６月期　3,575百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年６月期	－	0.00	－	47.00	47.00
2027年６月期	－				
2027年６月期（予想）		0.00	－	47.00	47.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年６月期の業績予想（2026年７月１日～2027年６月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,600	6.8	500	2.1	514	1.7	395	2.4	168.09

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
② ①以外の会計方針の変更　：無
③ 会計上の見積りの変更　：無
④ 修正再表示　：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年６月期１Ｑ	2,350,000株	2026年６月期	2,350,000株
② 期末自己株式数	2027年６月期１Ｑ	－株	2026年６月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年６月期１Ｑ	2,350,000株	2026年６月期１Ｑ	2,350,000株

※　添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料３ページ「１．経営成績等の概況　(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

決算説明資料は、本日（2026年11月13日）、TDnetで開示するとともに当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
(1) 当四半期の経営成績の概況 …… 2
(2) 当四半期の財政状態の概況 …… 3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
(1) 四半期貸借対照表 …… 4
(2) 四半期損益計算書 …… 5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 …… 6
（継続企業の前提に関する注記） …… 6
（持分法損益等） …… 6
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 7

１．経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第１四半期累計期間におけるわが国経済は、一部に弱めの動きもみられますが、緩やかに成長していると考えられます。消費は消費者マインドの持ち直しの動きもあり、雇用・所得環境の改善を背景に底堅い動きを見せております。もっとも、ウクライナ・中東等の地政学的リスク、AI関連需要の動向、為替相場の変動等、わが国経済を取り巻く世界情勢は依然として予断を許さない状況となっております。

一方、当社を取り巻く環境は、主要顧客が属する自動車業界においては、引き続き電動化の動きが進んでおります。環境問題に関しての脱炭素化への取組も加速しており、特に電力消費削減技術としてパワー半導体が注目されております。パワー半導体は自動車やエネルギー産業での使用が拡大しており、今後も開発競争が続くと見ております。

このような状況下で、当第１四半期累計期間の売上高は、主に信頼性評価事業の案件需要が増加し、1,031,110千円（前年同期比5.2%増）となりました。営業利益は、研究開発費や人件費が増加したものの売上高の増加により87,005千円（同5.3%増）となりました。経常利益は、支払利息が増加したものの売上高の増加により85,667千円（同3.6%増）となりました。四半期純利益は、投資有価証券売却益により83,543千円（同49.1%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

当社では、「微細加工事業」に分類されていた基板評価チームの業務について、「信頼性評価事業」に分類される環境試験業務との親和性が高まっております。これを踏まえ2026年７月１日付で組織改編を行い、基板評価チームを「信頼性評価事業」に所属する部門に編入することといたしました。

この組織改編を報告セグメントに適切に反映するため、当第１四半期累計期間より、基板評価チームの業務の報告セグメントを「微細加工事業」から「信頼性評価事業」に変更しております。なお、前第１四半期累計期間の報告セグメントごとの売上高、利益または損失に関する情報を変更後の区分方法により作成することは実務上困難であり、以下の前年同期比については、比較可能性を確保するため、当第１四半期累計期間の実績を前第１四半期累計期間の報告セグメントの区分に組み替えた数値に基づき算定しております。

（信頼性評価事業）

信頼性評価事業では、分析・解析において半導体関連の案件受注が好調に推移し、パワーサイクル試験において長期案件の受注等が好調に推移したことが業績を牽引しました。環境/電気試験の案件受注も好調に推移しました。

一方、長期案件等にかかわる費用が増加したことから、セグメント利益は減益となりました。この結果、売上高872,412千円（前年同期比3.2%増）、セグメント利益254,524千円（同1.6%減）となりました。

（微細加工事業）

微細加工事業では、レーザ加工において通信関連の試作品加工が増加、量産品加工においても堅調に推移したことで売上高が大きく伸長しました。また、表面処理技術においては、素材関連の案件受注が業績に寄与しました。この結果、売上高149,272千円（前年同期比15.0%増）、セグメント利益84,526千円（同33.7%増）となりました。

（その他事業）

その他事業では、販売案件の受注増加等により売上高が伸長いたしました。この結果、売上高9,425千円（前年同期比80.0%増）、セグメント利益1,504千円（前年同期はセグメント損失3,456千円）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第１四半期会計期間末における総資産は4,775,632千円となり、前事業年度末に比べ119,799千円減少いたしました。

流動資産は3,002,770千円となり、前事業年度末に比べ94,386千円減少いたしました。これは主に「現金及び預金」93,653千円減少によるものであります。固定資産は1,772,861千円となり、前事業年度末に比べ25,413千円減少いたしました。これは主に減価償却等に伴う「有形固定資産」14,777千円減少及び税効果会計上の一時差異解消等に伴う「投資その他の資産」8,179千円減少によるものであります。

（負債）

当第１四半期会計期間末における負債は1,226,828千円となり、前事業年度末に比べ92,892千円減少いたしました。

流動負債は671,985千円となり、前事業年度末に比べ110,890千円減少いたしました。これは主に納付等に伴う「未払法人税等」88,875千円減少、「役員賞与引当金」11,600千円減少によるものであります。固定負債は554,843千円となり、前事業年度末に比べ17,997千円増加いたしました。これは主に固定負債「その他」に含まれるリース債務10,453千円増加によるものであります。

（純資産）

当第１四半期会計期間末における純資産は3,548,803千円となり、前事業年度末に比べ26,906千円減少いたしました。

これは主に「四半期純利益」83,543千円の計上及び剰余金の配当110,450千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年６月期の業績予想については、2026年８月７日公表の業績予想に変更はありません。

２．四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （2026年６月30日）	当第１四半期会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,281,360	2,187,707
受取手形	1,925	－
電子記録債権	87,686	64,232
売掛金	512,741	510,114
仕掛品	134,528	132,974
原材料及び貯蔵品	18,213	31,670
その他	74,660	90,382
貸倒引当金	△13,959	△14,310
流動資産合計	3,097,156	3,002,770
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	598,566	583,042
工具、器具及び備品（純額）	452,832	433,696
その他（純額）	471,429	491,312
有形固定資産合計	1,522,829	1,508,051
無形固定資産	24,493	22,036
投資その他の資産	250,952	242,773
固定資産合計	1,798,275	1,772,861
資産合計	4,895,431	4,775,632
負債の部		
流動負債		
買掛金	700	3,831
短期借入金	120,000	120,000
未払法人税等	105,380	16,504
賞与引当金	27,208	67,366
役員賞与引当金	11,600	－
受注損失引当金	－	1,416
その他	517,987	462,867
流動負債合計	782,876	671,985
固定負債		
退職給付引当金	180,001	186,135
役員退職慰労引当金	21,600	22,850
資産除去債務	118,509	118,668
その他	216,734	227,188
固定負債合計	536,845	554,843
負債合計	1,319,721	1,226,828
純資産の部		
株主資本		
資本金	392,100	392,100
資本剰余金	1,066,550	1,066,550
利益剰余金	2,117,060	2,090,153
株主資本合計	3,575,710	3,548,803
純資産合計	3,575,710	3,548,803
負債純資産合計	4,895,431	4,775,632

(2) 四半期損益計算書

（単位：千円）

	前第１四半期累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
売上高	980,397	1,031,110
売上原価	660,879	688,745
売上総利益	319,517	342,364
販売費及び一般管理費	236,921	255,358
営業利益	82,596	87,005
営業外収益		
受取利息	69	233
受取手数料	－	120
物品売却益	770	－
その他	103	76
営業外収益合計	943	429
営業外費用		
支払利息	801	1,768
その他	67	0
営業外費用合計	869	1,768
経常利益	82,669	85,667
特別利益		
投資有価証券売却益	－	39,823
特別利益合計	－	39,823
特別損失		
減損損失	1,568	－
特別損失合計	1,568	－
税引前四半期純利益	81,101	125,491
法人税、住民税及び事業税	12,343	10,345
法人税等調整額	12,743	31,602
法人税等合計	25,086	41,948
四半期純利益	56,014	83,543

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（持分法損益等）

	前第１四半期累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
関連会社に対する投資の金額	4,900千円	4,900千円
持分法を適用した場合の投資の金額	－	－
持分法を適用した場合の投資損失の金額	－	－

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項はありません。

（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記）
当第１四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第１四半期累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	106,086千円	99,989千円

（セグメント情報等の注記）
【セグメント情報】
Ⅰ　前第１四半期累計期間（自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期損益計算書計上額（注）３
	信頼性評価事業	微細加工事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	845,395	129,764	975,160	5,236	980,397	－	980,397
外部顧客への売上高	845,395	129,764	975,160	5,236	980,397	－	980,397
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－
計	845,395	129,764	975,160	5,236	980,397	－	980,397
セグメント利益又は損失（△）	258,630	63,231	321,862	△3,456	318,405	△235,809	82,596

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バイオ、ゼロ・イノベーション等を含んでおります。
２．セグメント利益又は損失（△）の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。
３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
（固定資産に係る重要な減損損失）

（単位：千円）

	信頼性評価事業	微細加工事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	－	－	1,568	－	1,568

（注）「その他」の金額は、バイオに係る金額であります。

Ⅱ　当第１四半期累計期間（自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期損益計算書計上額（注）３
	信頼性評価事業	微細加工事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	894,213	127,471	1,021,684	9,425	1,031,110	－	1,031,110
外部顧客への売上高	894,213	127,471	1,021,684	9,425	1,031,110	－	1,031,110
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－
計	894,213	127,471	1,021,684	9,425	1,031,110	－	1,031,110
セグメント利益又は損失（△）	266,675	72,375	339,051	1,504	340,555	△253,550	87,005

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゼロ・イノベーションを含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

当社では、「微細加工事業」に分類されていた基板評価チームの業務について、「信頼性評価事業」に分類される環境試験業務との親和性が高まっております。これを踏まえ2026年７月１日付で組織改編を行い、基板評価チームを「信頼性評価事業」に所属する部門に編入することといたしました。

この組織改編を報告セグメントに適切に反映するため、当第１四半期累計期間より、基板評価チームの業務の報告セグメントを「微細加工事業」から「信頼性評価事業」に変更しております。なお、前第１四半期累計期間の報告セグメントごとの売上高、利益または損失に関する情報を変更後の区分方法により作成することは実務上困難であり、以下の前年同期比については、比較可能性を確保するため、当第１四半期累計期間の実績を前第１四半期累計期間の報告セグメントの区分に組み替えた数値に基づき算定しております。

	報告セグメント			その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期損益計算書計上額（注）３
	信頼性評価事業	微細加工事業	計				
売上高							
顧客との契約から生じる収益	872,412	149,272	1,021,684	9,425	1,031,110	－	1,031,110
外部顧客への売上高	872,412	149,272	1,021,684	9,425	1,031,110	－	1,031,110
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－
計	872,412	149,272	1,021,684	9,425	1,031,110	－	1,031,110
セグメント利益又は損失（△）	254,524	84,526	339,051	1,504	340,555	△253,550	87,005

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゼロ・イノベーションを含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。